

取扱説明書

薬剤ポンプ

SS-DP285S



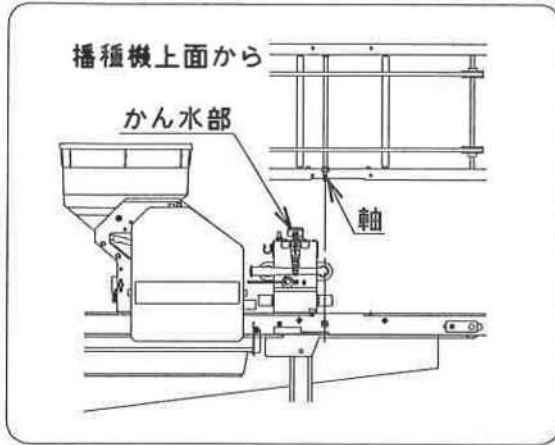
当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず
本取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをす
ると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

1. 組付要領

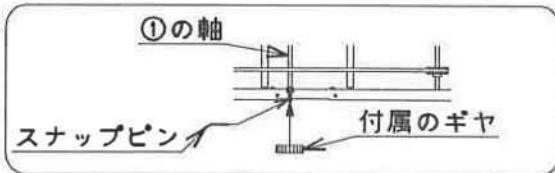


注意

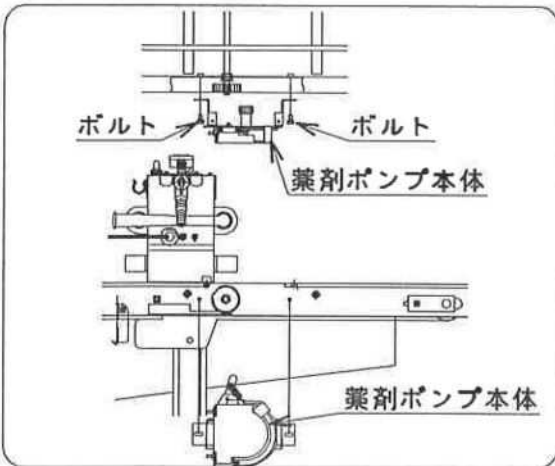
組付作業終了まで必ず播種機の電源スイッチをOFFにして電源プラグを建物のコンセントから抜いて行うこと。



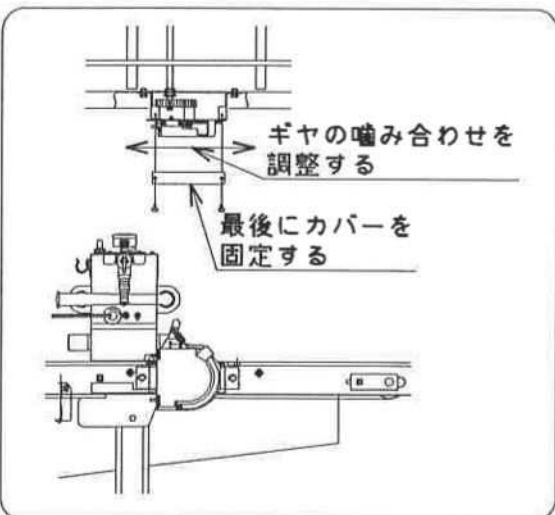
- ① 左図播種機かん水部付近の軸がポンプ駆動用の軸です。



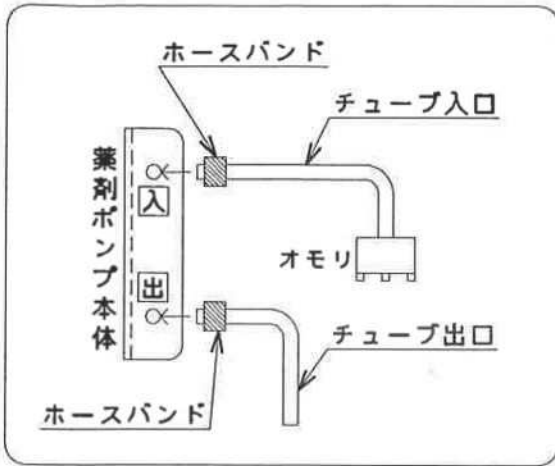
- ② ①の軸に付属のギヤを差込み、スナップピンで抜け止めします。



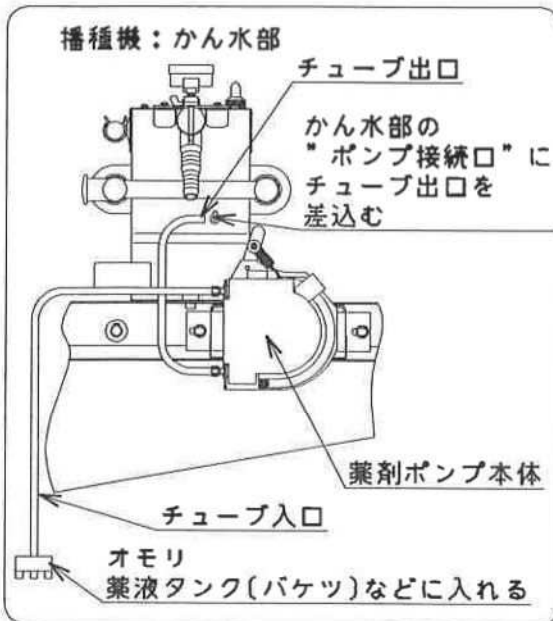
- ③ 図の様に薬剤ポンプ本体を付属のボルト2本で播種機に仮止めします。



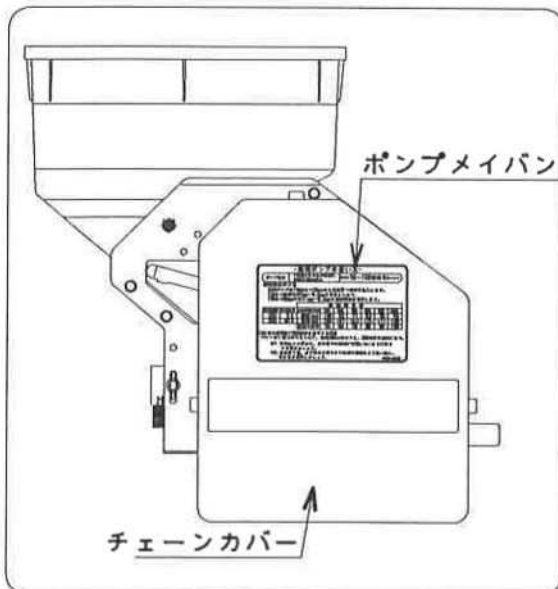
- ④ 薬剤ポンプ上面からギヤの噛み合わせを見ながら、薬剤ポンプを固定する。
* 噛み合わせが浅いと「歯飛び」が発生して正常に回転しません。
確実にギヤが噛み合っているか確認してください。
- ⑤ 動作確認の為に、播種機の電源プラグを建物のコンセントに差し込み電源スイッチをONにする。ギヤの噛み合わせが浅いと異音・歯飛びが発生して薬剤ポンプが回転ムラ(回転しない)になります。
反対にギヤが強く当り過ぎていると異音・回転ムラとなります。異常がある場合は再度播種機の電源スイッチをOFFにして電源プラグを建物のコンセントから抜き、薬剤ポンプの位置を調整してスムーズに回転するようにします。
- ⑥ 薬剤ポンプがスムーズに回転すれば付属のカバーをコリアネジで固定する。



- ⑦ 薬剤ポンプ本体に付属のチューブ入口(オモリ付き)とチューブ出口を差込みます。チューブ入口は"入"マークの接手にチューブ出口は"出"マークの接手に差込みホースバンドで抜け止めします。



- ⑧ 薬剤ポンプ本体に接続したチューブ入口は後述の薬剤タンク(バケツなど)に入れ、チューブ出口は播種機かん水部の"ポンプ接続口"マークの接手に差込みホースバンドで固定します。



- ⑨ 付属のポンプメイバンを播種機(播種部)のチェーンカバー等の見易い場所に貼付けます。

2. 薬液の調合方法

ダコニール1000剤・タチガレエース剤などの殺菌剤を使用します。

出来るだけ「液剤(水和剤)」を使用ください。粉剤の場合は分離沈殿し易く粉がコンスイパイプの目詰まりの原因となります。

防除基準(薬の説明書)では、500～1000倍に薄めた液を500cc散布することになってます。(かん水量も含めて500ccです)
仮に500倍液を1箱に500cc散布する場合は、1ccの薬を500ccの水で薄めて箱に散布することになります。

つまり、「500倍液なら1箱に1ccの薬が散布」されることとなります。

同様に「1000倍液なら1箱に0.5ccの薬・700倍液なら1箱に0.71ccの薬」が散布されることとなります。

弊社の薬剤ポンプは「1箱あたり50cc」の薬液を、かん水部に送り込み水道水(かん水)と混ぜて箱に散布します。

1箱に薬1cc散布(防除基準でいう500倍液)する場合は、「50ccの水に1ccの薬を溶かせばよい」こととなります。

かん水量は床土や育苗方法によって1箱あたり500～1000cc程度で変化しますが、

薬剤ポンプからかん水部へ送り込む薬液は1箱あたり約50ccで一定です。

下の表を参考に薬液を調合ください。

		薬剤ポンプ用 薬剤混合目安表						
播種する枚数(例)	準備する「水」の量	500倍	600倍	700倍	800倍	900倍	1000倍	倍率(防除基準)
100箱	5ℓ(5000cc)	100cc	83cc	71cc	63cc	56cc	50cc	必要な薬剤量
200箱	10ℓ(10000cc)	200cc	167cc	143cc	125cc	111cc	100cc	
		50倍	60倍	70倍	80倍	90倍	100倍	実際の希釈倍率

例えば「200箱」播種して「防除基準でいう700倍液を散布」するとします。

薬剤タンク(バケツなど)に「水10ℓ(10000cc)」用意します。(50cc×200箱=10000cc=10ℓ)

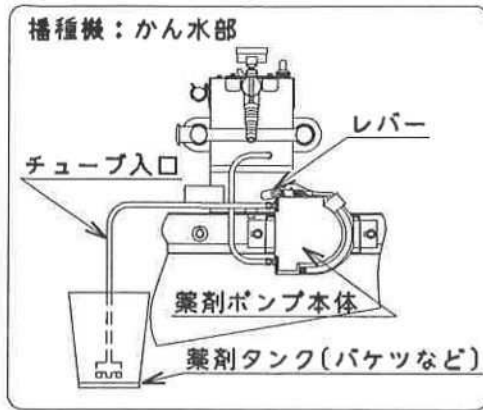
その水に「143ccの薬剤」を入れて混ぜます。

これで「1箱あたり薬剤0.71cc散布」することとなります。(143cc÷200箱=0.715cc)

防除基準でいう700倍液(実際には70倍液)と同等の散布量となります。

実際には薬剤ポンプで薬剤タンク(バケツなど)の底の薬液まで吸いきれません。「1～2割程度多目に薬液を準備」してください。
薬剤が液剤(水和液)であっても薬剤成分が沈殿する恐れがあります。「時々薬液を混ぜて沈殿しないように」してください。

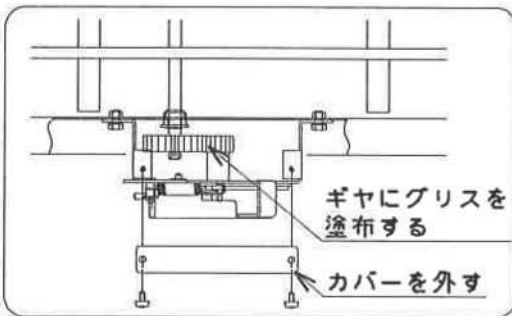
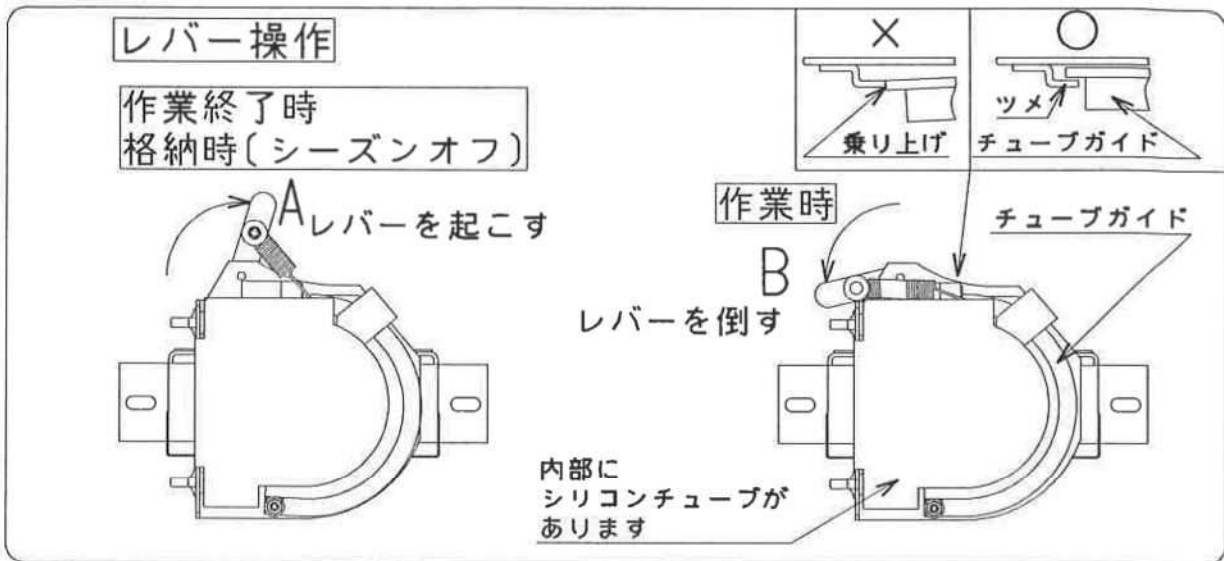
3. 作業



作業はチューブ入口を薬液が入った薬剤タンク(バケツなど)に入れ、レバーを倒して行います。

下図を参考にレバー操作してください。

但し、レバーをB位置に倒した(作業時)ときに薬剤ポンプ上面より見て、チューブガイドの先端がツメの中に入っているか確認すること。ツメにチューブガイドが乗り上げていると薬剤吸入出来ません。



回転ムラや回転が重くなるのを防ぐ為に作業前・作業終了時(格納時)には必ずギヤにグリス等を塗布してください。

4. 作業後の手入れ

作業が終わりましたら、播種機を空運転しかん水部に清水を流し薬剤ポンプは清水を吸入させてかん水部内・薬剤ポンプ内の残留薬剤を洗い流します。その後、カンスイパイプを外しパイプクリーナーで内部を掃除します。薬剤ポンプ・かん水部とも内部の水を完全に抜きます。薬剤ポンプのレバーは上図のA位置にしてシリコンチューブの変形を防ぎます。作業中でも薬剤ポンプを使用しない場合はA位置にレバーを起します。再度薬剤ポンプを使用する時はレバーをB使用位置に倒します。

シリコンチューブが変形や破損している場合は交換してください。シリコンチューブは1本付属しています。

ご注文される場合は、販売店・農協などでF4233-63181 チューブ(ポンプ)とご用命ください。

